博物館調査研究レポート

2017 年 UMAC ヘルシンキ年次大会への参加

（The 17th Annual UMAC Conference） 京都外国語大学・国際文化資料館館長　南 博史

2017 年の ICOM の大学博物館とコレクション委員会 UMAC 年次大会は、9 月 4 日～8 日の 5 日間にわたってフィンランドのヘルシンキ大学、およびユヴァスキュラ大学で開催された。

国際文化資料館の南は、4 日までニカラグアでの調査のためにマナグアからヒューストン、ミュンヘン経由で 5 日にヘルシンキに到着した。会議へは 6 日からの参加になったが、その目的は 2019 年 9 月からの 2019ICOM 京都大会についてのプレゼンや資料配布などであった。

翌 7 日は、ヘルシンキからバスで 3 時間のユヴァスキュラ大学でのオフサイトミーティングへ向かった。途中、昼食会場となった the village of Rutalahti は、フィンランドの典型的な牧畜と狩猟を中心とした生活を体験できる施設（エコミュージアムと言ってよいだろう）として公開されている。ワークショップでフォークダンスも組み込まれていて楽しいひと時であった。

会場となるユヴァスキュラ大学は 1863 年設立の教師養成学校が始まりとされ、その後、教育大学へ発展、科学分野の教育課程も加わって、1967 年にユヴァスキュラ大学に改名した。学生数は 15000 人ということで、フィンランド国内においても人気の高い大学である。

さて、8 日はオフサイトミーティングの発表が行われ、その後大学校内の見学会が催された。大学周辺は自然に恵まれ、また、林の中に点在する校舎のいくつかは、著名なフィンランド人建築家のアルヴァ・アールトによってデザインされたものである。校内にあるアルヴァ・アールトのミュージアムを案内いただいたが、アールトが古代ギリシア建築など歴史的な建造物、意匠を参考にしていることがよくわかった。

フィンランドの人々が、こうした建物を大事にうまく活用していることをあらためて知ることができた。一方、校内のカフェや売店などのちょっとしたスペースの設えや備品

(c) Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto Junior College of Foreign Languages All rights reserved. http://www.kufs.ac.jp/

のデザインがユニークで、北欧デザインの本場フィンランドならではという印象だった。このように、古いものと新しいものをうまく融合させているところもまた北欧文化・社会の豊かさであろう。



UMAC 総会にて新しい委員長と委員会が決定した



アルヴァ・アールト博物館にて



みんなでフォークダンス



ユヴァスキュラ大学にて歓迎パーティー



会場となったヘルシンキ大学



大学構内のアールト建築

(c) Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto Junior College of Foreign Languages All rights reserved. http://www.kufs.ac.jp/